

園芸タイムリー情報 《8月中・下旬版》

令和4年8月17日発行 第7号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

全作物共通

天気は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多いため、平均気温・降水量はほぼ平年並み、日照時間は平年並みか少ない見込みです。

- ①気温が高い時期のため、気象条件や生育に合わせた換気や灌水・肥培管理を行い、生育環境の確保に努めましょう。
- ②強風や大雨に備え、防風網の点検、ハウスの修理や補強、周辺の排水溝を掘り下げるなど、ハウスの防災環境を整えておきましょう。
- ③8月下旬になると夜間の気温が下がり始めるため、ハウスの開閉作業をこまめに行い生育を促すとともに、モヤ抜き換気を励行しましょう。
- ④ほ場観察や予察情報に基づき、薬剤のローテーションを考え、適切な防除対策を実施しましょう。特に、軟腐病、アザミウマ類、モンシロチョウ、コナガに注意しましょう。
- ⑤余裕を持った作業計画を立て、健康状態を確認して作業を開始しましょう。熱中症防止のため定期的に休息を取り、こまめな水分補給を心掛きましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和4年8月10日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■ 【環境保全編】

一農産物の安全性向上・周辺住民に対する配慮と対策一

- 農場内の汚れや汚染のリスクを明確にするために、整理整頓し、常に衛生的にする。
- 農業に伴い排出される廃棄物は、事業系一般廃棄物又は産業廃棄物に分類されるので、適正に処分する。作物残渣等についても、不適切な焼却は法令で禁止されているので、処分方法を自治体に確認する。
- 機械騒音対策として深夜早朝の作業は留意する。堆肥の悪臭対策として堆肥場の移動や完熟化の促進等の対策を講じる。
- ほ場から道路に出るときは、泥を道路に落とさないように清掃し、落とした場合は取り除く。低速車マークの表示や灯火器類を追加する等、保安基準を遵守する。

作物名

ピーマン・ししとう・なんばん

病虫害
 生理障害名

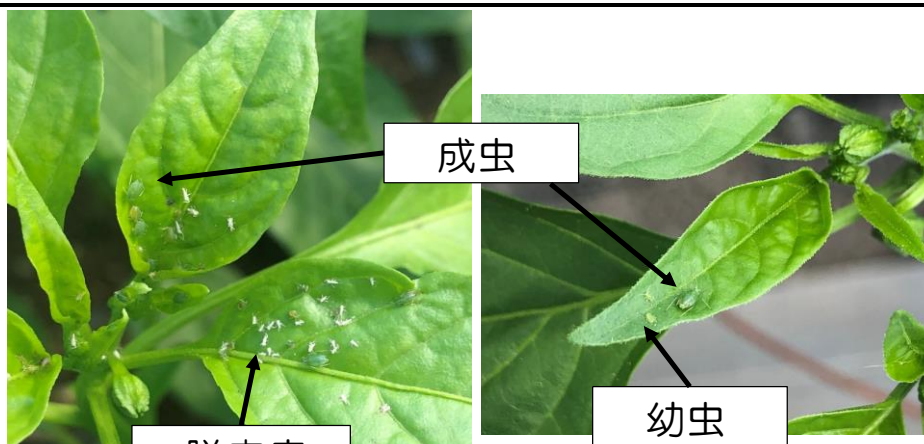
アブラムシ類

発生状況

多発生

発生時期

5月下旬～



モモアカアブラムシ
 (R4/5/31 なんばん)

発生の状況・要因

- ・モモアカアブラムシの発生が見られている。
- ・モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。

対策

- ・多発すると防除が困難になるので、生長点付近をよく観察し、初発を見逃さないよう努める。
- ・生長点付近の未展開の葉や葉裏に寄生している場合は、薬剤がかかりづらいので、散布は丁寧に行う。

＜防除の一例＞カブリダニ類の導入時にも使用可能

ピーマン

- ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内
- トランスフォームフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内

ししとう・なんばん（とうがらし類）

- スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

メロン・きゅうり

病虫害
生理障害名

うどんこ病

発生状況

少発生

発生時期

7月中旬～



きゅうりの葉表に発生した白いかび

発生の状況・要因

- 葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。
- 例年、生育後半に発生が多くなるが、本年の乾燥条件により発生が早まった。
- 過繁茂になると発生しやすい。

対策

- ほ場を乾燥させすぎない。
- 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。

＜防除の一例＞

●ポリベリン水和剤

メロン : 1,500～2,000倍 収穫前日まで 5回以内

きゅうり : 1,000～2,000倍 収穫前日まで 2回以内

●ベルコート水和剤

メロン : 1,000倍 収穫前日まで 5回以内

きゅうり : 2,000～4,000倍 収穫前日まで 7回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害
 生理障害名

写真：すいか(左)ときゅうり(下)に
 発生したアブラムシと被害葉

アブラムシ類

発生状況

中発生

発生時期

7月上旬～



発生の状況・要因

- ・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。
- ・ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。

対策

- ・きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

〈防除の一例〉

●アドマイヤー顆粒水和剤

すいか・メロン	5,000～10,000倍	収穫3日前まで	3回以内
きゅうり	5,000～10,000倍	収穫前日まで	3回以内

※すいか、メロンの露地栽培については、着果後から使用可能

※きゅうりは施設栽培のみ使用可能

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害
 生理障害名

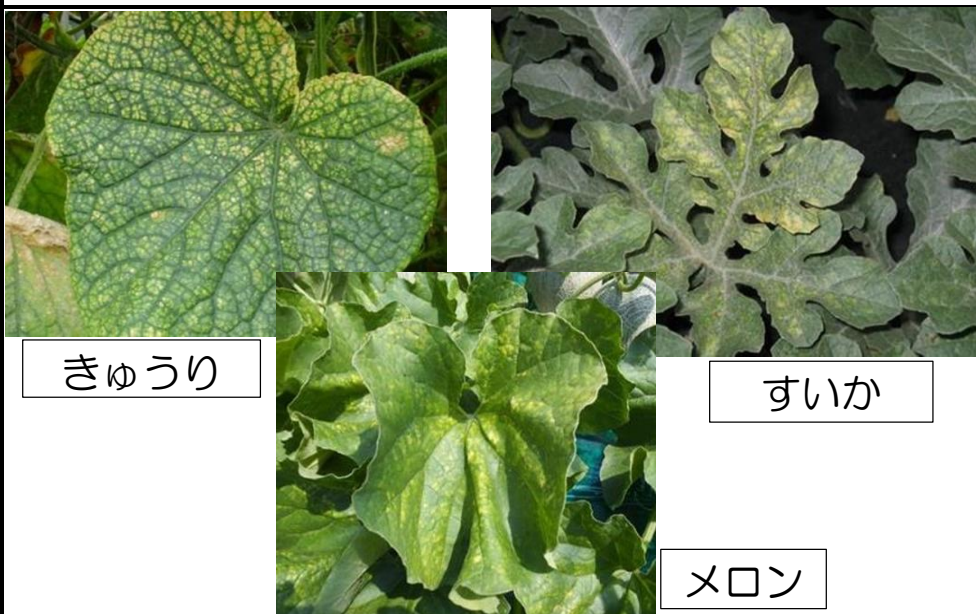
ハダニ類

発生状況

少発生

発生時期

6月上旬～



発生の状況・要因

- ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤年1回の使用に止め、ローテーション防除を行う。

<防除の一例>

●ピラニカEW

すいか・メロン：2,000～3,000倍 収穫3日前まで 1回
 きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 1回

●カネマイトフロアブル

すいか・メロン・きゅうり：1,000～1,500倍 収穫前日まで 1回

※上記2剤は、ハダニの全ステージに効果がある

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

あぶらな科野菜全般

病虫害
生理障害名

コナガ成虫



コナガ

発生状況

中発生

発生時期

5月下旬～

コナガ幼虫



幼虫による葉の被害

発生の状況・要因

- 幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。
- 本年は幼虫の発生は比較的少なく推移している。
- 8月は幼虫の飛来が目立つため、今後も注意が必要である。

対策

- ほ場周辺の雑草をこまめに除くことで、ほ場に飛び込む成虫を軽減させる。
- 侵入口となる隙間を作らないように防虫ネット（目合い1.0mm）を設置する。
- 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。
- シアミド剤の防除効果の低下事例が確認されているため、複数系統の薬剤を用いたローテーション防除を実施する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

しゅんぎく

病虫害
生理障害名

雌成虫の被害痕



幼虫による葉裏の食害



ハモグリバエ類

発生状況

少発生

発生時期

6月上旬～

成虫



発生の状況・要因

- 発生初期には、雌成虫が産卵管で葉に傷をつけ、液汁を舐めたり、産卵するので、表面に白い小斑点状の加害痕が見られる。
- 幼虫は葉肉内を蛇行して食害する。老熟した幼虫は潜孔内で蛹化する。

対策

- 苗への寄生と、定植ほ場への持ち込みに注意する。
- 幼虫多発後から防除を開始すると効果が得られにくい。成虫や幼虫の被害痕を見落とさないよう観察し、速やかに薬剤防除を行う。

＜防除の一例＞

- アファーム乳剤 2,000倍 収穫7日前まで 2回以内
- エビセクト水和剤 2,000倍 収穫14日前まで 2回以内
- ※エビセクト水和剤はマメハモグリバエで登録あり

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

パセリ

病虫害
 生理障害名

かびに覆われた葉

うどんこ病

発生状況

少～中発生

発生時期

7月下旬～



発生の状況・要因

- ・葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。
- ・ハウス内温度28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。
- ・7月下旬に地域で初発を確認したため、発生に注意する。

対策



- ・ほ場を乾燥させすぎない。
- ・発生前から予防的に薬剤散布を実施する。
- ・発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。

＜防除の一例＞

(発生前に7日～10日間隔で散布)

●クムラス	500～1,000倍	—	—
●クリーンカップ	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—
(発生初期)			
●アフエットフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜など葉菜類全般	
病虫害生理障害名	ウスカワマイマイ	
ナメクジ類 カタツムリ類		
発生状況		
中発生		
発生時期		
5月中旬～		

発生の状況・要因

- ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気が多い場所を好み、地中で越冬する。
- 葉の食害の他、這った痕の粘液の汚れ、本体やフンの混入が問題となっている。
- 雨天時や夜間は活発に活動する。
- 8月も発生が目立っているため、今後も注意が必要である。

対策

- 常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。
 - ほ場周辺の雑草をこまめに除く。
 - スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。
- <防除の一例>
 ●スラゴ 1～5g/m² (3.3～16.5g/坪) 発生時

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。